

平成30年
3月23日

病害虫発生予報 4月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

農作業事故が増加する季節です
～転落・転倒・挟まれに注意！～

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ：ハダニ類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

促成・半促成ピーマン：アザミウマ類・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

促成トマト：灰色かび病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

【その他の病害虫】

イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，
春ハクサイ，春レタス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

【防除所レポート】

チャバネアオカメムシの越冬状況（平成30年2月調査）・・・・・・・・ 4

II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの
「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で
確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel:0299-45-8200
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、被害株率(本年値 26.8%, 過去9年平均値 29.8%), 発生地点率(本年値 70%, 過去9年平均値 69%)ともに平年並である。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。
- ③ ミツバチや天敵を導入している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

促成・半促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、促成ピーマンにおける寄生花率(本年値 44.0%, 過去9年平均値 46.3%)は平年並、半促成ピーマンにおける寄生花率(本年値 32.5%, 過去9年平均値 21.9%)は平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速く、各種ウイルス病を媒介するので発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ③ 天敵を導入している場合は、影響が少ない薬剤を選択する。

促成トマト

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、発病株率（本年値 1.3%，過去9年平均値 7.2%），発生地点率（本年値 22%，過去9年平均値 42%）ともに平年並～やや低い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので，送風，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
 ② 花落ちが悪く残った花卉や罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
 ③ 薬剤は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードもしくは系統の異なる薬剤を用いてローテーション散布する。
 ④ 薬剤散布は，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並～やや多い	3月中旬現在，平年並～やや多い発生である。
促成・半促成 ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	3月中旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：多い	3月中旬現在，平年より多い発生である。
促成トマト	コナジラミ類	発生量：多い	3月中旬現在，平年より多い発生である。

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
促成キュウリ	うどんこ病	発生量：やや多い ～多い	3月中旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。
	褐斑病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
	べと病	発生量：少ない	3月中旬現在，平年より少ない発生である。
	アザミウマ類	発生量：やや多い	3月中旬現在，ミカンキイロアザミウマは平年よりやや多く，ミナミキイロアザミウマは平年並～やや少ない発生である。向こう1か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。
春ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
春レタス	灰色かび病	発生量：やや多い	3月中旬現在，平年よりやや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並	3月中旬現在，平年並の発生である。
	腐敗病		

チャバネアオカメムシの越冬状況（平成 30 年 2 月調査）

ナシ、カキ、リンゴなどの重要害虫であるチャバネアオカメムシの越冬数についての調査結果をお知らせします。

本年 2 月上旬に山林の表層土を含んだ落葉を 1 地点当たり 30 リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査しました。調査は常陸太田市、笠間市、水戸市、小美玉市、鉾田市、行方市、石岡市、つくば市、桜川市の合計 42 地点で行いました。

その結果、越冬成虫数（本年値 2.6 頭、平年値 2.3 頭）は平年並～やや多く、越冬地点率（本年値 38%、平年値 42%）は平年並でした。なお、本年を含む過去 10 年間の越冬状況の推移を見ると、越冬成虫数・越冬地点率ともに多い年と少ない年をほぼ交互に繰り返しており、本年は多い年にあたります（図）。

そのため、越冬世代成虫の果樹園への飛来数（4～7 月）は、平年並～やや多いと予測されます。

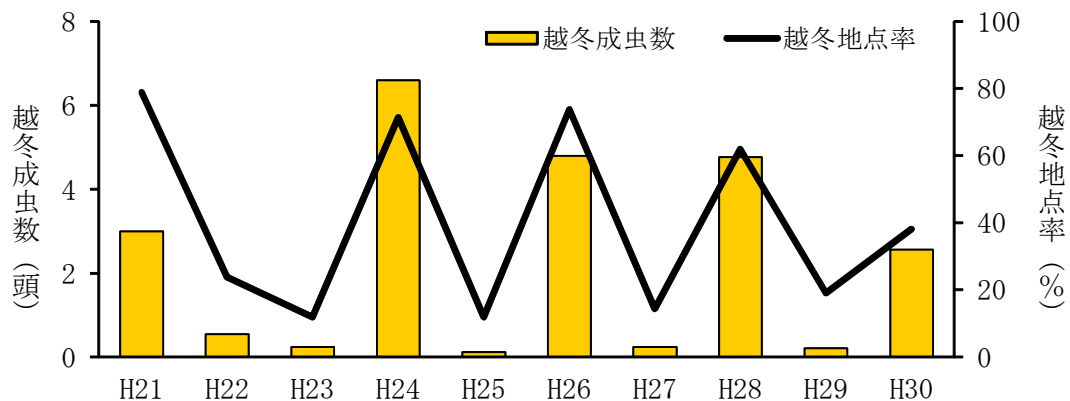


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫数および越冬地点率の年次変動

病虫害防除所では、果樹カメムシ類について予察灯調査（4～10 月）、サクラにおける発生量調査（5～6 月）を行うので、今後発表する情報に注意してください。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 3月24日から4月23日)

気象庁(3月22日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	20	70
	降水量	関東甲信全域	40	30	30
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 3月24日(土曜日)から3月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率80%

<2週目の予報> 3月31日(土曜日)から4月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 4月7日(土曜日)から4月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。